

委嘱状交付式／平成 27 年度 第 1 回 松戸市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

1. 日時	平成 27 年 11 月 16 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 新館 7 階 大会議室
3. 出席者	<p><委員>（50 音順）</p> <p>秋葉委員、天田委員、飯沼委員、石井委員、石田委員、加藤委員、神谷委員、小泉委員、小松委員、佐藤委員、鈴木委員、竹次委員、富永委員、奈賀委員、西委員、箱田委員、平井委員、文入委員、松浦委員、森田委員、山田委員</p> <p><松戸市></p> <p>子ども部長、子ども部参事監、子育て支援課、幼児保育課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、障害福祉課、教育企画課、指導課、事務局（子ども政策課）</p>
4. 傍聴者	6 名
5. 次第	<p>1 委嘱状交付式</p> <p>2 市長（部長）あいさつ</p> <p>3 松戸市子ども・子育て会議</p> <p>（1） 会長・副会長 選出・あいさつ</p> <p>（2） 松戸市の子ども施策について</p> <p>（3） 新規事業及び新たな取組み事項</p> <p>① 産後ケア事業</p> <p>② 特定教育・保育施設、地域型保育事業の利用定員等について</p> <p>4 その他</p>

<要旨>

1 委嘱状交付式

2 市長（部長）あいさつ

3 松戸市子ども・子育て会議

（1）会長・副会長 選出・あいさつ

○会長・副会長 選出

「松戸市子ども・子育て会議条例第 5 条第 1 項」の規定による委員の互選により、会長及び副会長を選出。

森田委員から、西委員を会長に推薦。

委員一同異議なし。

西会長から、坂野委員を副会長に推薦。

委員一同異議なし。

会長は西委員、副会長は坂野委員に決定。

○西会長あいさつ

「はじめまして」という方と、「お久しぶりにお会いしました」という方と、両方いらっしやる。推薦していただいたので、また2年間ちょっと頑張らなければと思う。今、松戸市子ども総合計画を作った2年間の思い出を思い起こしていた。「子ども力」という言葉で、主役は子どもであり、子どもが健やかに育っていくために何が出来るかを一番に考えていきましょうということを皆様と共に合意し、この計画が出来た。今年度4月から新しい政策が始まっているが、例えばおやこDE広場を利用するお母さんの中には「育休明けに会社に戻れるかしら」という声もあり、まだまだ不安の中にいるのが現状だと感じている。さらに、量だけではなく質の問題がこれから大事になっていく。住民や地域を支えるそれぞれの立場の方達が、子どもの未来のために質をきちんと守る必要がある。松戸市は日本で誇れる先駆的に取り組んでいることがいっぱいある。子ども部長の力強いお言葉もとても励みになる。ただ絵に描いた餅になってはいけない。この審議会の中で多くの意見を出し合い、考え合い、集約し、行政の方達にもご理解いただきながら、進めていけたらと思っている。

○会議の成立

(事務局)

総委員数25名、21名出席(4名欠席)。

「松戸市子ども・子育て会議条例第6条第2項」の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例32条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成したい。

(西会長)

議事録は事前に委員の了解を得た上で公開することで了承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

6名の方から傍聴の申し出あり。

(西会長)

入室を許可する。

(2) 松戸市子ども施策について

(西会長)

議事次第の(2)松戸市の子ども施策について、説明をお願いしたい。

(事務局)

議事3の(2)松戸市の子ども施策について、資料1:次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告、資料2:松戸市子ども総合計画の概要、資料3:松戸市子ども総合計画の進捗報告(重点的取組み1「幼稚園・保育所(園)・小学校の連携」、重点的取組み3「放課後子ども総合プランの策定」、重点的取組み4及び5「環境資源(自然・文化・歴史)を活かした取組みの拡充と小中高の居場所づくり」、重点的取組み10「ひとり親家庭への支援の充実」、重点的取組み14「待機児童の解消」)をもとに説明。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

(文入委員)

小規模保育事業は平成27年11月までに6ヶ所整備ということだが、現在は整備出来ているのか。

(西会長)

小規模保育事業における平成27年11月現在の状況について、報告をお願いしたい。

(幼児保育課)

小規模保育事業は11月現在14ヶ所を設置している。今年4月時点で8ヶ所あったところ、今年度新たに6ヶ所整備し、14ヶ所となっている。今年の9月に予算化し、追加で10ヶ所程度整備をしていく予定で、来年の4月には24ヶ所にする予定である。

(西会長)

上半期の整備は進んでいると理解する。

(神谷委員)

松戸市の事業が推進されているという話は、過去いわゆる乳幼児に関する議論が進んだ結果だと思っている。子ども総合計画策定の段階で、私と数人の委員が一生懸命に

申し上げたことは、児童館・こども館の話である。子ども総合計画はこうした委員の意見をしっかりいかす形で作っており、すごく良く出来ている。この子ども総合計画の中で、平成28年度には児童館機能を持った施設を1ヶ所整備するとある。今日その話が聴けると期待してきた。また中高生がバンドやダンスなどの活動が出来る場所や、学習スペースが必要ではないかと思う。市の施設計画の中にはそれらが展開されていると思うが、その説明をして欲しい。私は2つの児童館の整備に携わった経験があるので、現段階で既に進んでいないと平成28年の整備には間に合わない。進んでいないとすれば課題である。今の時代に合った児童館を整備するというのは、松戸市の非常に大きな目玉である。今、児童館は閉鎖される都市こそあれ、新設されるところは私が知る限りない。是非、これが目玉ですと大声で言っていたきたい。

(西会長)

児童館機能を持った施設の事業について、進捗状況の説明をお願いしたい。

(子どもわかもの課長)

松戸市内には、児童館が1ヶ所、児童館機能を持ったこども館は根木内と野菊野の2ヶ所しかなく、小中高生がそれぞれの成長段階で安心して自由に過ごせる居場所が少ない。その為、子ども同士の交流が持てる居場所づくりが急務である。子ども総合計画の中では、今後5年間で2ヶ所を整備する予定である。学校の空き教室等の公共施設や民間施設の賃貸等も視野に入れて調査・検討してきたが、条件が合わず、現時点では開設に至っていない。今後公共施設の再編等あらゆる可能性を考慮に入れ、目標達成を目指したい。新松戸北小学校の学校跡地の有効利用を図るために、街づくり部が中心となってコミュニティの複合施設を平成28年の秋口に開設する予定である。この施設は平屋ではあるが、床面積が1400㎡で非常に広いフロアである。その施設は、現計画段階では子ども関連施設が多くを占めている。その施設を児童館機能を持った施設として運営したく、今事業者と協議を進め、来年度開設を目指す。ワーキンググループについても、ぜひ神谷先生にご参加いただきたい。

(神谷委員)

若干補足をすれば、建物が決まってから中の構造を決めるのは難しい。特にバンドの場合は音の漏れ、ダンスの場合はフロアの振動などがある。是非建物を建てる前に周りの構造を建てられる方々と検討していただきたい。バンドやダンスが出来る場については、松戸市子どもフォーラムの中で意見があがり、市に報告した経緯もある。子ども達の夢を壊さない松戸市であって欲しい。子ども達の夢が叶えば、お父さんお母さんにも松戸市を愛する心が築く。子ども達にとっては、自分の夢が叶う街となり、そこにこれからも住み続けたいという思いにつながるはずである。そういった長い視

野で考えられるのが児童館であると思う。是非ともご検討して欲しい。

(箱田委員)

晴香園から見えてくる子ども達、家族の状況をお話したい。晴香園は児童養護施設で、児童虐待や養育困難などの理由で、家庭で暮らせない子ども達が入所する施設である。施設のほとんどの子どもに親はいるが、親の生活自体が成り立っていないという家庭が多い。具体的には、社会のルールのもとで生活を送るとか、人間関係を継続的に持つとか、健康的な生活を送るとかいうこと自体が難しいという親が多い。子どもへの気持ちが全くない訳ではないが、精神的な障害や病気も関係し、自分自身が生きていくのに必死で、子どもを育てることまで気持ちが回らない。こういった話を地域の学校の先生とすることがあるが、学校の先生からもそういった家庭が増えているという話をうかがう。親が子どもの面倒を見られず朝学校に来ない、学校の先生が家にまで子どもを迎えに行く、迎えに行っても親が朝ごはんを食べさせていないので学校の先生が何か食べる物を手配することなどが増えている。学校の先生からすると「晴香園に入っている子はまだいいです」と言われる。本当にどうしようもなくなってしまうえば施設に入所するが、親に子どもへの気持ちが回らない訳ではないので、このようになる前に、親子で家庭生活が継続出来るような社会的支援やサポートが必要だと思っている。計画の説明の中で、ひとり親家庭への支援や学習支援など、幾つか貧困対策にあたる事業が組み込まれていた。貧困対策というと非常に多岐に渡り、学習支援だけでもない、経済的支援だけでもない、生活を成り立たせるためにはいろいろな側面からの支援が必要になると考える。多くの課にまたがる取組みになるが、貧困対策の法律が出来、大綱が策定されたところや、質に焦点をあてて、対応を進めて欲しい。今の段階でどういった状況かお伺いしたい。

(西会長)

ひとり親家庭、また児童虐待等の問題を抱えている家庭への施策について、現在進められているものがあれば、説明をお願いしたい。

(子ども部参事監)

貧困問題は家庭そのものも子どもも非常に悩ましい問題で、国でも法律が出来、大綱が出来、各自治体でも計画を作るという大きな話になってきている。松戸市においては、子ども部長に国のひとり親家庭の支援策を検討する社会保障審議会の委員になっていただいている。松戸市の今後の取組みについては、そこでの自治体や有識者の先生の意見を踏まえて、具体的に予算や制度に取り入れていこうと進めている。相談や学習支援や生活リズムを整えるための居場所というのは、総合的に推し進めていかなければならない。子ども部長のもと精力的にやっていきたい。またこの会議を通して

いろいろとご報告、ご相談をしていきたい。

(子ども部長)

参事監は厚生労働省から派遣していただいております、社会保障審議会のひとり親家庭の専門委員に推薦していただいたので、この部分には力を入れたいと思っている。先週、市長に貧困の連鎖を断ち切りたい、子どもの学習支援に特に力を入れたい、ということ強く迫ってきた。新年度から出来るだけ力を入れていきたい。

(天田委員)

私は平成14年、平成19年、平成27年に出産をして子育てをしているが、平成14年に出産した長男の時よりも、今年1月に出産した三男の時の方が明らかに子育てしやすくなったと肌で感じている。この場を借りてお礼を言いたい。友達の中にも子どもが3人、4人、5人いるという方が結構いる。その中で、一番話題になるのが費用の話である。保育料が1人目普通、2人目半額、3人目無料はありがたいが、全体として保育料が下がるといいという話は常々ある。引越をした方がいると都内の保育料との比較も出る。また放課後児童クラブの利用料は2人目、3人目での特典がないので、検討していただければありがたい。

(西会長)

放課後児童クラブの費用の面に関して、説明をお願いしたい。

(子育て支援課長)

放課後児童クラブにおける多子世帯の支援については、市議会でもご質問いただいております、検討していくと答弁している。よりよい子育てが出来る方向にしていきたい。

(子ども部長)

保育料は第三子の無償化拡大を検討しており、来年の政策の目玉としたい。放課後児童クラブの利用料は、市の財源が限られているため、まずは、子育て世帯の流入による財源確保をしてから検討していきたい。松戸市は、市民一人あたりの税収が低い。一人あたりの税収額の差が、市川市と比べると29,600円、柏市と比べると19,600円あり、市の人口が50万人として市川市と比べると150億くらいの財源の差がある。まずは保育料の第三子の(第二子も視野に入れているが、)無償化拡大に力を入れていく。今、流山市は、全国トップクラスで若い世帯が転入している。それは共稼ぎ世帯をターゲットに、いろいろな条例を作って戦略的にやっているからである。松戸市は、おやこDE広場と子育て支援センターが19ヶ所もあるが、プロモーション活動が全然なされず、流山市に子育て世帯を持っていかれているところがある。これからは、保育

料の第三子無償化拡大を目玉とし、次に放課後児童クラブの利用料の検討という形で、意欲的に先行投資をしていきたい。子ども部全体で多くの政策費の要求をしている。それがどこまで市で意思決定され、市議会が認めるかという問題もあるが、全体的には好意的である。子どもに関しては経費ではなく未来への投資であるという共通認識があるので、その中で進めていきたい。

(石井委員)

小学校では、子どもの数は減っているが、放課後児童クラブの児童の数は増えているという状況である。松戸市内の小学校全44ヶ所、今後45ヶ所になるが、全校で放課後児童クラブがあるということは、もっと宣伝してもいい松戸市の大きな事業である。放課後児童クラブと放課後KIDSルームを一体的に運営するにあたり、例えば子どもの安全が心配とを感じる場面がある。今後の両者の関係についてお伺いしたい。放課後児童クラブと放課後KIDSルームについて責任をもって運営していかなければならない中で、子ども達が安全で健全な生活が出来るように、この会議の中で体制を整えていって欲しい。

(西会長)

放課後KIDSルームと放課後児童クラブの関係性について、説明をお願いしたい。

(子育て支援課長)

子ども達の安全確保のために、放課後児童クラブと放課後KIDSルームの連携は非常に重要なことだと考えている。放課後児童クラブと放課後KIDSルームで同一法人が運営している場合は連携を取りやすいが、運営が違う法人の場合でも円滑に連携が取れるように、出欠等の管理システムなども検討していきたい。

(石井委員)

子どもを預かっている私達からいえば、管理という事だけではなく、子どもを守るためにどうしたら一番いいかを考えて欲しい。

(子育て支援課長補佐)

放課後KIDSルームの出欠管理は、放課後KIDSルームに来た時間・帰った時間を管理している。ただ放課後KIDSルームの利用する・しないは子どもと保護者の方が決めるという自立した利用を前提としている。安全管理はよりきめ細かく学校側と連携を取って進めており、放課後KIDSルームと放課後児童クラブの違いを補完し合いながら進めていきたい。

(西会長)

放課後児童クラブ、児童館、このあたりで今課題が出ているところである。

(3) 新規事業及び新たな取組み事項

(西会長)

新規事業及び新たな取組みについて①産後ケア事業、②特定教育・保育施設、地域型保育事業の利用定員等について、説明をお願いしたい。

(子ども家庭相談課 母子保健担当室長)

① 産後ケア事業について、資料4をもとに説明。

(幼児保育課主幹)

② 特定教育・保育施設、地域型保育事業の利用定員等について、資料5-1～資料5-3をもとに説明。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

(石田委員)

産後ケア事業についてはありがたい。箱田委員の意見にもあったが、おやこDE広場やママパパ学級に来ているお母さんの中で、精神的に不安定で子育てが難しいという方が沢山増えてきていると感じる。産後ケア事業は他市でも取り組んでいるのを知っていたので、松戸市でも今年から取り組んで頂いてありがたい。ただそれだけではなく、子育てに不安を抱えているが、おやこDE広場やママパパ学級に来られない方も多いと感じる。そういう実態があることをこの場で伝えたい。

(西会長)

今の発言はご意見と理解する。現場としては、産前、産後、それ以降とアウトリーチをどうしていきたいかということだと考える。

(佐藤委員)

産後は父親が母親をどれだけ支えられるかが重要だと思う。産後ケアが必要になる前から、ママパパ学級などで父親が参加出来るような促しがあるといいと思う。また母親だけでなく、家族やその周辺もケアしていくことで改善していくこともあると思う。その辺りもご配慮いただけるとありがたい。

(西会長)

父親の育児参加をどうしていくか。今やっていることがあるか。ママパパ学級は定着しているが、父親の参加はまだ定着していないと思うが、いかがか。説明をお願いしたい。

(子ども家庭相談課 母子保健担当室長)

ママパパ学級は、父親にも参加してもらえるよう土曜日も実施しており、ご夫婦で来ていただけるように呼びかけもしている。かなり沢山のプレパパに参加いただいている。また今年度からママパパ学級をおやこ DE 広場と子育て支援センターでも開催し、プレパパとプレママと一緒に参加して、赤ちゃんを産んだ方の話を聞いたり、実際に赤ちゃんをプレパパが抱っこしたりと、イメージをつかみ夫婦で支えあうことの大切さを話し合ってもらう場面を設けるようにしている。今後も工夫していきたい。

(石井委員)

おやこ DE 広場やほっとる一むがあまり宣伝されていないような気がする。ただ宣伝していなくても、比較的便利な場所、伊勢丹隣の文化ホール4階でほっとる一むを運営していると、土日は父親と子どもと一緒にくるケースも多い。ほっとる一むの来場者は少ない日でも50組、多い日では100組を超える。また毎月0歳児とその保護者向けに「赤ちゃん講座」なども実施し、多いときは40組ぐらいの親子が参加している。このように、松戸は赤ちゃんを連れて行けるところがあるということを宣伝して欲しい。松戸市は子育ての先端にあるということを、もっと宣伝をして欲しい。おやこ DE 広場や子育て支援センターは産前・産後も来られる場所である。ママパパ学級も人形を抱えさせるよりも、本物の赤ちゃんを抱っこしたほうが良いと思う。松戸で子どもを育てて良かったと思っていただくように、我々も受け入れ体制を整えていきたい。中・高生と赤ちゃんとのふれあい体験なども含め、今後も会議の大事な視点としていけたらと考えている。

(西会長)

おやこ DE 広場や子育て支援センターが19ヶ所で、赤ちゃんとその保護者を対象とする様々なイベントをやっていることの効果やその重要性を、もっとアピールしてもいいのではというご意見と理解する。

(石井委員)

また最近では外国人の方々も増えているので、その受け入れ体制をどうするか、市からもご指導していただきたい。

(子育て支援課長)

アピールは、今後子ども政策課という新しい課が出来たこともあり、どんどんしていきたいと思っている。当初から、妊婦のときからおやこ DE 広場や子育て支援センターを知っていただくという方針で進めている。佐藤委員から出た父親の支援は、例えば父親は家事などを手伝ってやっているという意識が強いケースがあり、母親が聞くと嫌悪感を抱くなど心理的な部分もあるようなので、様々な背景を把握し、相談の質の向上に努めていきたいと思っている。

(西会長)

さらなる内容の充実ということで進めていただければと思う。②特定教育・保育施設、地域型保育事業の利用定員等について、質疑応答をお願いしたい。

(石田委員)

おやこ DE 広場でコーディネーターをしていると、保育所の質問を沢山受ける。先日企画した保育所座談会でも、質問が沢山あった。小規模保育事業は、増やしてもらってありがたいという意見がある一方、兄弟児でも別の保育所にいかなくてはならないのか、小規模保育事業だと 2 歳児までなので 3 歳児から別の保育所に入所することになるが、その際ちゃんと転園できるのかという不安をもっている。近隣市では兄弟でも違う保育所に入ることがあるとはっきり伝えられており、松戸市ではまだ血の通った対応になっていると実感している。また子ども部長からは子育て世帯を流入させたいという話が出ていたが、子育て世帯が転入してくればそれだけ保育所も沢山必要で、さらに保育士の確保という課題も出てくると思う。その辺りのことを教えて欲しい。

(幼児保育課長)

兄弟児の問題では、入所の段階でなるべく同じ施設に入れるように調整している。ただ現在入所保留者が約 400 人程度おり、全ての希望に添うことは出来ない。その場合には、保護者に別々の施設になってもいいかの同意・了解を得ながらご案内している。小規模保育事業に入っている方は、3 歳児の段階で連携園への案内をしているが、連携園を望まない保護者や 3 歳から幼稚園で教育を受けたいと希望する保護者もいる。幼稚園での預かり保育の拡充を進める中で、3 歳児の段階での選択肢を広げ、待機児童の解消につなげたいと考えている。また保育士確保の問題は、決められている配置基準を遵守した中で、質を落とさずやっていきたい。国では、保育士の家賃補助や潜在保育士の再就職について補助等のメニューが豊富になってきているので、新年度も予算化して進めていきたいと考えている。

(石井委員)

小規模保育事業を3ヶ所運営しているが、今の話にあったように、全員を連携園に受け入れるのは難しく、幼稚園の協力も含め3歳児を受け入れてもらうようお願いしている。3歳児の受け入れをするのは難しいということを課題として受け止めて進めて欲しい。

(西会長)

特定教育・保育施設の利用定員は課題が山積みということを皆様で共通認識出来たところだが、市の対応も含め、今後も対応していきたい。

4 その他

○次回の会議の開催

(事務局)

来年の平成28年3月28日(月)、午後6時30分から開催を予定している。

議題内容は、松戸市子ども総合計画の進捗報告、特定教育・保育施設の利用定員等について、ご意見をうかがいたい。

(西会長)

本日の議事は全て終了した。